



序 文

京都医療センターのアンニュアルレポートができあがりました。診療科によっては毎年の年報を出されていたようですが、病院としてのアンニュアルレポートは6年ぶりとなります。この間、国立病院は法人化され、独立行政法人国立病院機構となり、当院は京都医療センターとなりました。当センターの使命は、高度な医療の提供、新しい医療技術の開発そして人材の育成です。この目標を達成するために、病院一丸となって取り組んでいます。平成23年度もこの目標を達成するために、関係者の方々にご尽力をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

平成23年を振り返ったとき、まず上げなければならないことは東日本大震災とそれに起因した津波災害と原発事故でした。当センターからもDMATの派遣を始め、様々な支援活動を国立病院機構の一員として果たしてまいりました。当センターの中での動きを見ると、平成23年1月に新病棟が完成し運用が始まりました。病棟では緩和ケア病棟と特別室個室病棟が新設され、また手術室も10室から12室へと拡張し、内視鏡治療センターの運用も始まりました。当センターの柱の一つである救命救急センターも新棟に移転し、充実した施設の中で救命救急医療が行えるようになりました。また、同年12月にはGCUが開設され、NICUとともに新生児の治療に貢献できるものと思います。これらの施設は、今後、当センターの発展に大きく貢献してくれるものと期待しています。一方、その計画した実績を上げることが課題となり、関係者の一層の奮闘が望まれます。

平成22年度から診療報酬のプラス改定により当センターの収支は大幅な改善を示しました。平成23年度も引き続き順調な運営がなされ医業収支はプラスとなっています。しかし、平成22年度に比べると医業収入は増加していますが、医業経費や人件費の増加も大きく、収支率は減少しました。今後は医業収入の増加を図るとともに、医業費用の削減が課題と考えています。しかし、医療の質を確保し、当センターの活動を高めるための資源の投資は必要であり、長期的な展望をもって計画的に進める必要があります。

以上述べました平成23年度の成果を踏まえ、スタッフが一丸となって平成24年度も引き続き当センターの発展に勤めてまいります。

皆様におかれましては、今後とも、ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

院長 中 村 孝 志